

**第21回 NPO法人 日本臨床口腔病理学会総会・学術大会**  
**スライドセミナーのご案内**

剖検報告書作成、免疫組織化学、細胞診の3コースを設定しています。受講者は10名以内（先着順）です。当日会場で自由に質疑応答ができます。試料はあらかじめ受講者に配布されるコースもあります。各コースは同時進行ですので、複数のコースを受講することはできません。

受講希望の方は、6月30日までに下記の参加申込書に氏名、所属名、参加希望コース名をご記入のうえ、大阪歯科大学口腔病理学講座（FAX 072-864-3157）

- ◆日時：平成22年7月30日（金）16:00～18:00
- ◆会場：大阪歯科大学天満橋学舎（附属病院）
- ◆受講費：3,000円（当日、徴収させていただきます）

**I. 剖検報告書作成にあたっての留意点—実際の剖検例を用いた解説—**

神戸大学医学部附属病院病理診断科 原 重雄 先生

病理専門医試験の解剖症例問題は、制限時間が150分と余裕があるように思われるが、実際には短く感じられ、限られた時間で病理所見を的確に把握し、臨床経過を加味して病態を総合的に捉えることが求められる。過去の出題例をみても、主病変が複数（例：急性心筋梗塞+前立腺癌、成人T細胞性白血病+肺結核+結腸癌など）にわたっているものが多く、細かい所見をとることにこだわっていると全体の病態把握に手間取ることになる。本講習では実際の解剖症例をもとに、病理所見のとり方や死因に至る病態の図示、設問への解答の仕方などを提示し、専門医試験への備えとする機会としたい。

**II. 唾液腺腫瘍の免疫組織化学**

市立堺病院 病理・研究科 原田博史 先生

唾液腺腫瘍は母組織に多彩な構成細胞を有し、そのため腫瘍性病変にも種々多様な分化が検知され、組織学的分類も著しく煩雑なものとなっている。なかでも顕著な特徴が腫瘍性筋上皮細胞の関与であり、筋上皮への分化の有無を的確に捉えることは診断初期の篩い分けには極めて重要であり、このステップで免疫組織化学の果たす役割は大きい。その他、扁平上皮や様々な形態の腺上皮によって構成される組織型も多くみられ、それらの特徴をより客観的に証明すべく近年では数多くのマーカーが診断に応用されつつある。本セミナーではこれらの筋上皮系および腺上皮系のマーカーを中心にその特徴や用途、実際の診断に応用する際の留意点などを概説したい。

**III. 細胞診専門医を目指して**

東京歯科大学市川総合病院 臨床検査科病理 田中陽一 先生

細胞診は、手技が簡単で、子宮頸癌、肺癌では広く検診にも用いられている。近年、口腔がん検診でも細胞診を用いる動きが出始めている。また、日本臨床細胞学会が認定している細胞診専門医制度もあり、歯科医も受験可能である。さらに本年4月からは細胞診判断料、診断料が臨床検査から独立、保険制度上も口腔でも認知されるようになった。今後口腔病理医の一つの skill として求められるようになる。今回はこのような観点から、制度や試験の概要、受験勉強の対策も含め、広く細胞診を解説する。近年注目の液状細胞診についても手技を含め体験していただく。実際の症例に関してはバーチャルスライド方式も用い講師には多数の専門医をお願いしている。

----- キリトリ -----

**第21回 NPO法人日本臨床口腔病理学会総会・学術大会**

**大阪歯科大学口腔病理学講座 宛（FAX 072-864-3157）**

**スライドセミナー参加申込書**

参加者氏名	所属名（連絡先・電話・e-mail）	参加希望コース
	郵便番号・住所・所属名  TEL e-mail	I ・ II ・ III

希望コースに○印を付けて下さい。